

平成24年度
大学病院情報マネジメント部門
連絡会議

抄録集

情報マネジメントの再評価
—やってきたこと、これからすべきこと—



会期 平成25年2月7日(木)・8日(金)

会場 朱鷺メッセ(新潟県新潟市)

大会長 赤澤 宏平(新潟大学医歯学総合病院 医療情報部)

ご 挨拶

平成 24 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議
大会長 赤澤 宏平
(新潟大学医歯学総合病院 医療情報部長 教授)

このたび「平成 24 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議」を、平成 25 年 2 月 7 日(木)、8 日(金)の 2 日間、新潟市朱鷺メッセにて開催させていただくこととなりました。冬の新潟での開催ということで、口演発表やポスター発表の件数が激減するのでは?と心配しましたが、全国から 150 題近くの応募をいただきました。年々、情報マネジメントへの関心が高まっている証であろうと考えます。日本海側特有の曇り空と雪の多い時期ではありますが、実りある会議にするために尽力する所存でおりますので、参加される方々のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

私が医療情報部で働き始めましたのが 1985 年でした。ちょうどオーダリングシステムの創成期にあたり、医事会計業務はもちろんのこと、検査部や薬剤部での業務も情報システムを組み入れた形で行われるようになりました。その後、ネットワーク技術の発展とともに病院情報システムも電子カルテ、PACS、その他の情報システムが導入されてきたことは周知の事実です。2000 年に入り病院内での情報システムの運用や用途は大きく様変わりしました。各部門での専門的な業務に特化したシステムが稼働し始めましたし、システムの開発や運用にとどまらず、集積されたデータの活用や取扱いも重要視されるようになりました。このような状況を踏まえて、情報マネジメントという共通項の下、いろいろな大学病院のいろいろな部門・職種の方々に情報交換を行う場が必要となったと考えます。

本連絡会議では、「情報マネジメントの再評価 - やってきたこと、これからすべきこと -」をメインテーマとしました。その趣旨は情報マネジメントが病院で果たしてきた役割を改めて考え直し、それらの評価内容を礎にして今後何をすべきかを考え直してみることです。この場をお借りいたしまして感謝申し上げます。本連絡会議は学会とは異なり、情報マネジメントに携わるあらゆる部門、あらゆる職種の関係者が一同に会し、情報を共有し率直な意見を交換できることを目的としております。各セッションには分かれますが、これまでやってきたこと、これからすべきことを議論の軸として、多職種の方々の積極的な交流を期待しております。

今回の開催では、国立大学病院のみならず、私立大学病院等の情報マネジメントの関係者に積極的な参加を呼びかけさせていただきました。最初に述べましたように、新潟市はこの時期厳しい気象条件ではありますが、その一方で、食べ物や飲み物も一番おいしい時期でもあります。十分に食した上で英気を養い日頃考えていることを本音で語り合っていたいだきたいと思えます。再度となりますが、全国の情報マネジメント部門に携わる方々のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成24年度 大学病院情報マネジメント部門連絡会議 日程表

2月6日(水)

	8	30	9	30	10	30	11	30	12	30	13	30	14	30	15	30	16	30	17	30	18	30	19	30	20	30	21
幹事会・部長会 孔雀の間・鳳凰の間 (ホテル日航新潟)																	幹事会(孔雀 3F) 15:00-17:00	部長会(鳳凰 30F) 17:00-19:00									
部長懇親会 鶴の間 (ホテル日航新潟)																									部長懇親会(鶴 30F) 19:00-		

2月7日(木)

A会場 メインホールB	開 会 式	病院情報システム セッション1 9:00-10:00	看護セッション 10:15-11:45	ランチョン セミナー 12:00-13:00 共催:富士通	病院マネジメント セッション 13:15-15:15		病院情報システム セッション2 16:30-17:30																					
B会場 中会議室201		情報交換 A 9:30-10:30	情報交換 B 10:30-11:30	ランチョン セミナー 12:00-13:00 共催:富士通	情報交換 C 13:15-14:15	情報交換 D 14:15-15:15	スイーツ セミナー 15:30-16:30 共催:マカフィー																					
C会場 中会議室302A		歯科セッション 9:00-10:30	診療情報管理士 セッション 10:30-12:00	ランチョン セミナー 12:00-13:00 共催:東芝	部長会セッション 13:15-14:45		地域連携 セッション2 16:30-17:30																					
D会場 中会議室302B		薬剤セッション 9:00-10:30	地域連携 セッション1 10:30-12:00		検査セッション 13:15-15:30		情報マネジメント 部門セッション2 16:30-17:30																					
E会場 小会議室203・204		診療情報 管理士 連絡会 9:00-10:00	情報マネジメント 部門セッション1 11:00-12:00		UMIN 小委員会(薬剤) 13:15-15:30		UMIN協議会 幹事会 16:30-17:30																					
P会場 メインホールA		ポスター展示・企業展示 ポスター 立会い			ポスター展示・企業展示																							ポスター 立会い
展示ルーム 中会議室301A		展示(ホスピタリティ)ルーム 共催:日本電気株																										
展示ルーム 中会議室301B		展示(ホスピタリティ)ルーム 共催:富士通株																										
展示ルーム 小会議室303・304		展示(ホスピタリティ)ルーム 共催:東芝医療情報システムズ株																										
小会議室305				UMIN 小委員会 (事務) 11:15-12:15				日本医療連携研究会 15:30-17:30																				
懇親会 朱鷺の間 (ホテル日航新潟)																											全体懇親会(朱鷺 4F) 18:00-20:00	

2月8日(金)

A会場 メインホールB		基調講演 9:00-10:00	総会・閉会式 10:15 - 11:45	UMIN 総会																								
運営委員会 小会議室305					運営委員会 12:15-13:15																							
P会場 メインホールA		ポスター展示・企業展示																										
展示ルーム 中会議室301A		展示(ホスピタリティ)ルーム 共催:日本電気株																										
展示ルーム 中会議室301B		展示(ホスピタリティ)ルーム 共催:富士通株																										
展示ルーム 小会議室303・304		展示(ホスピタリティ)ルーム 共催:東芝医療情報システムズ株																										

5. 既行マ

RENTO 0000

部 日

会

2

000000

プログラム

開会式

日 時：2月7日（木）8：45～9：00

会 場：A会場 メインホールB

基調講演

大学病院マネジメントの現状と課題

日 時：2月8日（金）9：00～10：00

会 場：A会場 メインホールB

演 者：平野 浩之（文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室長）

1 病院情報システムセッション1

病院情報システムを利用した医療の質・安全向上のための取り組み

日 時：2月7日（木）9：00～10：00

会 場：A会場 メインホールB

座 長：酒巻 哲夫（群馬大学医学部附属病院）

寺島 健史（新潟大学医歯学総合病院）

「より安全で質の高い医療を実現するために」という大義名分のもとに、われわれはこぞって電子カルテシステム・オーダエントリシステムの導入を進めてきた。しかし、ベンダが提案するシステムを導入すれば必ずしもそれだけですべてが解決するわけではない。入力された情報が共有されなかったり、有効に利用されなかったりすることに起因するインシデントもたびたび起こっている。それらを単に「システムの不具合」もしくは「運用の問題」として現場ユーザとシステム部門との間で責任の押し付け合いをしていないだろうか。問題を解決するためには、メインシステムの改修が必要なのか、補助システムの導入を検討すべきなのか、現場の運用の改善でカバーすべきなのか等、電子カルテシステム時代ならではの丁寧な問題点の切り分けが必要である。本セッションでは、そのような医療の質・安全を向上させるための病院情報システム活用の実際と課題について議論し、問題点を共有することを目指したい。

1. 自然言語処理を用いた電子カルテからの転倒事例の検出

鳥谷部 真一（新潟大学医歯学総合病院）

2. 医療現場の隙間をうめる部門システムと電子カルテの連携

～佐賀大方式輸血後鉄過剰症モニタリングプログラムの開発～

末岡 榮三朗（佐賀大学医学部附属病院）

3. 電子カルテの記載による薬剤副作用情報の解析

鈴木 隆弘（千葉大学医学部附属病院）

4. 手術用器材へのトレーサビリティシステム導入効果

～IC タグによる診療支援システムとの連動～

佐々木 和子（秋田大学医学部附属病院）

5. 既往歴入力ウィンドウの項目と実運用との乖離を示す指数（既往歴項目乖離指数）の提案
小畑 充彦（大阪大学歯学部附属病院）

2 病院情報システムセッション2

多様なテクノロジーを活用した病院情報システム構築の経験と課題

日 時：2月7日（木） 16：30～17：30

会 場：A会場 メインホールB

座 長：遠藤 晃（北海道大学病院）

黒田 知宏（京都大学医学部附属病院）

病院情報システムは、メインフレームの時代からパーソナルコンピュータの時代を経て、今や多様性の時代となった。スマートフォン・タブレットを利用した入力・閲覧システム、特定の診療に特化した専用システムと基幹システムとの連携、シンクライアントシステム・仮想化システムの導入、など各医療機関が各々のニーズと優先度にしたがって新たなシステムを構築し稼働させている。その過程では、さまざまな試行錯誤や現場ユーザとのやりとりがあったはずであり、それらを各医療機関だけのノウハウとして埋没させてしまうのはもったいないことである。本セッションでは、先進的な取り組みを行っている事例の紹介を通して、発表者のみならずセッションに参加している参加者全体で広くざっくばらんな情報交換できる場を提供したい。

1. iPod touch での看護業務支援システムの構築

～完全な情報伝達の実現に向けて～

中島 典昭（高知大学医学部附属医学情報センター）

2. 当院における初療看護記録電子化の中間報告

～新潟大学 ACSYS-ER の導入と今後の課題～

小川 竜太（新潟大学医歯学総合病院）

3. SBC システムを利用した iPad による電子カルテ業務

廣瀬 隼（熊本大学医学部附属病院）

4. CDISC に準拠した eCRF システムの構築

真鍋 史朗（大阪大学）

5. PHILIPS 社製 ORSYS を用いた人工心肺自動記録システムの有用性について

熊倉 強史（新潟大学医歯学総合病院）

6. 機器及びネットワーク情報と保守業務記録が一体となった IT 資産管理のシステム構築

中島 典昭（高知大学医学部附属医学情報センター）

3 部長会セッション

電子保存時代のシステムリプレースの課題

日 時：2月7日（木） 13：15～14：45

会 場：C会場 中会議室 302A

座 長：高林 克日己（千葉大学医学部附属病院）
赤澤 宏平（新潟大学医歯学総合病院）
演 者：宇宿 功市郎（熊本大学医学部附属病院）
鈴木 隆弘（千葉大学医学部附属病院）
中川 肇（富山大学附属病院）

我が国の病院内オーダエントリーシステム・電子カルテシステムは世界でも最も早く整備が進み、ほぼ全ての国立大学病院で運用されています。しかし電子カルテの運用から時間がたち、トータルペーパーレス化が進む中、大量のデータが蓄積されることになり、データベースの肥大化、データ内容の複雑化により、システムリプレースにおける諸課題はますます大きな問題になってきています。そこで今回の部長会セッションは本来 ICT の進歩に沿うように考えられた大凡 5 年毎のシステムリプレースを取り上げ、各大学病院でのリプレース対策について提言をいただき、議論を深めたいと思います。

まず仕様書作成からシステムリプレースまでにかかる期間、同一ベンダーではなく他ベンダーへの移行を考えて、この 5 年ごとのリプレースが適切であるのか、またマルチベンダーが多い中、どのような手法が考えられるのかなどを、最近リプレースを行った熊本大学の事例を聴きます。次に移行にかかわるシステムの停止時間について議論します。もはや診療と結びついて一時も停止できないという状況の中で逆に停止期間が数日かかるとするベンダーもあります。はたして nonstop は可能なのか、またユーザーがたくさん作ったオーダセットやクリニカルパスシステムなど各大学病院の資産の移行はどうするのか、移行時の現実的な問題について、千葉大学の事例を示します。さらに異なるシステムにおいて見読性はどこまで担保されるべきなのか、以前の紙の文書やスキャナー取り込み文書をどう扱うかなどについて富山大学の事例を紹介していただいた上で、さらに全体での討論を考えています。

4 薬剤セッション

薬剤師の病棟業務を支えるシステム構築について考える

日 時：2月7日（木） 9：00～10：30

会 場：D 会場 中会議室 302B

座 長：神林 泰行（筑波大学附属病院）

三澤 昭彦（新潟大学医歯学総合病院）

平成 24 年度診療報酬改定における入院基本料の「病棟薬剤業務実施加算」が新設され、薬剤師の病棟における臨床業務が評価されたことは、これまでの断片的な病棟業務である「薬剤管理指導業務」からの大きな飛躍であり、病棟薬剤師が果たすべき役割は極めて大きい。病棟薬剤業務と薬剤管理指導業務による入院患者への全般的な関わりが求められる一方、中央業務も病棟薬剤師との連携を深め、業務がおろそかにならないよう努めなければならない。

今回の薬剤セッションは、病棟薬剤業務を実施するための人員マネジメントや業務効率化・再構築に向けて意見交換を行うために、①既に算定している施設から業務の変化や問題点・改善事例について、②システムベンダーの視点から見た病棟薬剤業務について紹介していただき、病棟業務を支える薬剤システムについて議論していきたい。

5 看護セッション

看護業務の効率化に役立つ情報マネジメントとは？

日時：2月7日（木） 10：15～11：45

会場：A会場 メインホール B

座長：木田 菊恵（徳島大学病院）

塚原 宣子（千葉大学医学部附属病院）

大学病院の看護業務は量・質ともに大きく変わりつつある。質の高い安全な医療を提供するためには、人・物・情報を効率的に動かすしくみが必要となる。本セッションでは、日常の看護業務の中で、未だ効率化されていない問題点を発掘しその問題点を解決するための施策について、それぞれの大学の取り組みを紹介してもらおう。特に、情報を有効に活用するシステムについてその仕様と運用経験を取り上げることにする。

1. 看護用語の標準化への取り組み

～MEDIS-DC 看護実践用語標準マスタを導入して～

須藤 貴子（秋田大学医学部附属病院）

2. SBC システムで利用するタブレット型端末への期待

中西 智子（熊本大学医学部附属病院）

3. フィールド・イノベーション手法による病棟看護業務の改善活動報告

長谷川 薫（富山大学附属病院）

4. 毎日継続する入院処置行為に注目して

～医事会計上のルールと現場との乖離について～

片山 千鶴子（東北大学病院メディカル IT センター）

5. キャリア形成支援システムの構築

—キャリアパスの「見える化」を試みて—

近藤 佐地子（徳島大学病院）

6. 看護部委員会の意見交換に Web 活用の有効性

～シフト勤務時間内で意見交換する取り組み～

大北 美恵子（福井大学医学部附属病院）

6 検査セッション

1. 地域連携時代における臨床検査データの活用に向けてこれからすべきこと

2. 検査業務の効率化と安全性向上を目指した取り組み

日時：2月7日（木） 13：15～15：30

会場：D会場 中会議室 302B

オーガナイザー：真鍋 史朗（大阪大学）

1. 地域連携時代における臨床検査データの活用に向けてこれからすべきこと

情報通信インフラの拡張および ICT の進歩により、複数の医療機関が連携し、地域で患者の治療を行う地域完結型の医療が注目されている。日本の高度情報通信ネットワーク社会推進連絡本部（IT 戦略本部）では、「シームレスな地域医療連携」などを提唱しており、医療施設間での情報共有・情報交換が重要となっている。また、多施設から臨床情報を集約した医師主導型臨床研究や、電子化された医療情報データベースを活用する、日本のセンチネルプロジェクトも動き出している。

これらのプロジェクトに代表されるように、ライフログ的に患者の健康情報の推移を確認したり、大規模臨床研究のデータとして臨床検査データを利用しようとする試みが行われるようになってきた。そこで重要なのが、臨床検査データは本当に施設間での連携に使えるようになってきているのか、という問題である。日本では臨床検査項目の標準コードとして JLAC10（臨床検査標準マスター）が厚生労働省より認可されているが、まだ普及しているとはいえない現状がある。

そこで、本セッションでは「地域連携時代における臨床検査データの活用に向けてこれからすべきこと」をテーマとして下記の演題を集めた。このセッションを通じて臨床検査コードやデータのあり方について考えてみたい。

座 長：仲野 俊成（関西医科大学）

真鍋 史朗（大阪大学）

1. 検査データを施設間連携で利用する際の問題点

～地域連携時代における臨床検査データの活用に向けてこれからすべきこと～

糸 直人（京都大学 医学部附属病院）

2. 細菌検査領域の DWH スキーマに関する提案

片岡 浩巳（高知大学医学部附属医学情報センター）

3. MFER を用いた施設間波形情報共有

仲野 俊成（関西医科大学大学情報センター）

4. 長期保存の臨床検査データを比較した事例

真鍋 史朗（大阪大学）

2. 検査業務の効率化と安全性向上を目指した取り組み

臨床検査業務は、自動分析装置による自動化が進み、TAT も劇的に短縮し、診察前検査も不自由なく実現できる時代となっている。一方で、自動分析装置などの管理すべき機器が増えたにも関わらず、少ない人数のスタッフで業務を遂行しなければならない課題が出てきた。少人数でも管理可能な検査の効率化の取り組みや、システムへの入出力部分で発生する人為的なエラーを予防する仕組み作りが重要となってきている。検査セッションの2つ目のテーマでは、検査業務の効率化と安全性の向上を目指した取り組みの事例を紹介する。

座 長：石田 博（山口大学医学部附属病院）

片岡 浩巳（高知大学医学部医学情報センター）

5. 検査室における「コックピット構想」

小倉 克巳（高知大学医学部附属病院）

6. TAT（Turn Around Time）短縮を目的とした検査装置と検査システムの効率的な運用

星山 良樹（新潟大学医歯学総合病院）

7. 検体紛失を防ぐための検査室内での取組

柿崎 隆紀（新潟大学医歯学総合病院）

7 歯科セッション

歯科病院情報システムの今、これから

日 時：2月7日（木） 9：00～10：30

会 場：C会場 中会議室 302A

座 長：森本 徳明（広島大学）

座 長：鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院）

歯科の病院情報システムは医科システムとの共存を図りながら歯科固有の診療形態や保険ルールに対応するために様々な開発や構築の努力が積み重ねられてきた。

昨年の歯科セッションでは、医科と歯科のシステムが同一ベンダによるもの、複数ベンダによるものなど、導入方法の違いによる大学病院の歯科病院情報システムの評価を行った。

今回は「情報マネジメントの再評価－やってきたこと、これからすべきこと－」という会議テーマに従い、現状で稼働しているシステムに、なにができて、なにが不足しているか、それを解決するためには何が必要かを議論するセッションを企画した。

セッションでは東京歯科大学市川総合病院、徳島大学、広島大学の事例について、次の視点で発表していただく予定である。

現在、稼働している各演者施設の歯科病院情報システムにおいて、

1. 病院情報システムの目指す方向
2. 病院情報システムで、達成できたこと、変わったこと
3. 病院情報システムで、まだ足りないこと、これからすべきこと
4. 可能であれば、日本の歯科の大学病院情報システムで可能になってほしいこと

これらの発表から、今後の歯科病院情報システムの方向性につき議論したい。

1. 歯科電子カルテの実現から応用へ

～医療情報システムの医科歯科統合と歯科診療データの二次利用～

三輪 裕一郎（東京歯科大学市川総合病院）

2. 情報マネジメントの再評価

～業務からみた使用状況の分析～

日浅 恭（広島大学病院）

3. 徳島大学病院の歯科電子カルテの更新

河野 文昭（徳島大学）

8 病院マネジメントセッション

病院機能を活性化させる「投資」～今、求められる病院資源のマネジメント～

日 時：2月7日（木） 13：15～15：15

会 場：A会場 メインホールB

座 長：宮田 幸宏（新潟大学医歯学総合病院）

1. 多職種参加型病院経営企画チーム

～切れ目のない経営戦略を求め～

三浦 雅司（浜松医科大学医学部附属病院）

久慈 裕（浜松医科大学医学部附属病院）

2. 財投，学内貸付，自己資金の狭間の中で

～多様な資金をどう有効活用していくか～

國友 陵一（京都大学医学部附属病院）

安藤 洋平（京都大学医学部附属病院）

3. 病院医療事務の直営化について

松岡 新一（高知大学医学部附属病院）

久保 雅裕（高知大学医学部附属病院）

4. 経営分析からインセンティブ手当・人事制度へ

～医師と医療スタッフに選ばれる病院を目指して～

潮田 尚次（佐賀大学医学部附属病院）

藤満 幸子（佐賀大学医学部附属病院）

9 地域連携セッション1

国立大学医療連携部門の現状と今後

～「日本医療連携研究会－国立大学部門」の活動から～

日 時：2月7日（木） 10：30～12：00

会 場：D会場 中会議室 302B

座 長：長野宏一郎（東京大学医学部附属病院）

鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院）

国立大学病院において医療連携や退院支援を担う部門が設置されたのはここ10年程度と比較的歴史が浅く、以来、各施設では組織の位置づけや人員配置等で様々な努力と実績を積み上げてきた。42大学の情報共有や各種活動の基盤として2003年に国立大学医療連携・退院支援部門連絡協議会（以下、協議会）が設立され、この協議会をベースとして日本医療連携研究会－国立大学部門という研究プラットフォームも生まれている。大学病院の医療連携・退院支援部門は地域における医療連携の核として重要な機能を担っているが、研究や教育機能も担う特定機能病院という位置づけから我々は退院支援や医療連携の実務のみならず地域の医療マネジメントまで含む研究、あるいは人材育成という教育分野での責務も負っているといえよう。

本セッションでは、日本医療連携研究会－国立大学部門の活動から、協議会で毎年施行している42大学に対するアンケート調査分析を紹介し、国立大学病院の医療連携部門がこれから進むべき方向性につき議論したい。

1. 国立大学医療連携部門の軌跡と展望

森口 はるな（東京大学医学部附属病院）

2. それぞれの施設の基本情報から探る

池上 俊彦（信州大学医学部附属病院）

3. 国立大学医療連携部門の業務の標準化に向けて

石井 理恵（東京医科歯科大学医学部附属病院）

4. 業務数値から医療連携部門の現状と今後の課題を探る

鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院）

5. 沿革・位置づけの観点から

櫃本 真事（愛媛大学医学部附属病院）

6. 当該部門の学問体系化に向けた課題

小林 利彦（浜松医科大学医学部附属病院）

7. H23年度前方連携の現状

川崎 浩二（長崎大学病院）

8. H23年度後方連携の現状

川崎 浩二（長崎大学病院）

10 地域連携セッション2

国立大学医療連携部門の現状と今後

～「日本医療連携研究会－国立大学部門」の活動報告とその他の話題～

日 時：2月7日（木） 16：30～17：30

会 場：C会場 中会議室 302A

座 長：長野宏一郎（東京大学医学部附属病院）

鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院）

1. ソーシャル・ワーク損害賠償責任保険の開発

石井 征輝（東京大学医学部附属病院）

2. 国際医療連携への取り組み

中島 直樹（九州大学病院）

3. 信州メディカルネットにおける大学病院の役割について

浜野 英明（信州大学医学部附属病院）

4. 大阪大学の地域医療連携システム構想

～文書および画像の電子的情報交換～

三原 直樹（大阪大学）

11 診療情報管理士セッション

電子カルテシステムにおける診療情報の活用と課題

日時：2月7日（木） 10：30～12：00

会場：C会場 中会議室 302A

座長：藤谷 香澄（岐阜大学医学部附属病院）

初山 貴（北海道大学病院）

オーガナイザー：長浜 宗敏（大阪大学医学部附属病院）

診療情報の管理業務は、電子カルテの普及により、紙中心の“物”の管理から電子的な“情報”管理への大きく変わりつつある。診療情報管理の実務者は、診療録の管理、DPC、クオリティインディケータ、がん登録など、病院経営や医療の質向上に必要な情報を、より効果的に管理することが求められている。しがしながら、電子カルテによる情報化の恩恵を受けながらも多くの問題に直面している。

本セッションでは、ICTを活用したがん登録、診療情報の活用、電子カルテの導入によって生じる諸問題など、診療情報管理に関する様々な取り組みについて発表して頂く。

総合ディスカッションでは、「紙」から「電子」へと取扱う媒体が変化する中、診療情報管理士が経験する様々な問題を確認しながら、今後の診療情報の活用と課題について考察する。また、会場との意見交換を交え、これからの時代に「診療情報管理士」が担うべき役割について考えてみたい。

1. ICTを活用したがん登録システムの構築に関する研究

佐々木 和美（佐賀大学医学部附属病院）

2. 診療情報管理士による Cross Functional 観点からの情報分析

正木 義朗（大阪医科大学附属病院）

3. 電子カルテ時代のカルテ開示

～大学病院診療情報管理士連絡会のアンケートより～

藤井 歩美（大阪大学医学部附属病院）

4. 診療情報管理士と電子カルテ

～これまでとこれから～

吉野 孝博（福井大学）

12 情報マネジメント部門セッション1

情報マネジメント部門に関わる話題 ～経営と業務の改善について～

日時：2月7日（木） 11：00～12：00

会場：E会場 小会議室 203・204

座長：石原 謙（愛媛大学医学部附属病院）

佐藤 弥（山梨大学医学部附属病院）

大学病院の経営は最近の日本の社会情勢を反映して厳しさを増している。経営改善への取り組みは、必然的に病院内でのさまざまな業務を改革することにつながる。経営と業務の改善はそれぞれの大学病院の置かれている地理的条件、医療環境等により異なるが、その具体的な改善策に関して情報を共有することにより、新たな改善策を作り出す可能性を秘めている。

本セッションでは、経営と業務に関わる改善策の事例を紹介してもらい、その優れた点とさらに解決すべき点を洗い出すことを行う。その改善策の中で病院内の情報がいかに活用されるのかにも注目する。

1. 職員の病院経営への参画意識向上手法としての「インセンティブ成果評価制度」について
蛭川 親宏（千葉大学医学部附属病院）
2. 医事請求の適正化及び術式別収支分析システム
山崎 洋（千葉大学医学部附属病院）
3. 病院個別状況を考慮したBCP策定支援ツールの設計
大原 達美（東京医科大学病院）
4. 外来患者呼出システムの現状と課題
～呼出受信機送受信ログデータから考える～
大場 浩明（秋田大学医学部附属病院）

13 情報マネジメント部門セッション2

情報マネジメント部門に関わる話題 ～特に人材像と組織運営～

日時：2月7日（木） 16：30～17：30

会場：D会場 中会議室 302B

座長：井上 裕二（山口大学医学部附属病院）

近藤 克幸（秋田大学医学部附属病院）

オーガナイザー：木村 映善（愛媛大学医学部附属病院）

松村 泰志（大阪大学医学部附属病院）

指定討論者：松村 泰志（大阪大学医学部附属病院）

大学病院における情報マネジメント部門は、性質の異なる多岐の業務を担うことが特徴のひとつである。電子カルテシステムやオーダリングシステムをはじめとする病院情報システムの管理・運用はもちろんのこと、診療録管理、病院経営や経営戦略、医療安全管理、地域連携、データの有効活用など、種々様々の業務をこなす部門である。これらの多岐の業務遂行にはそれなりの人材と組織運営が求められる。

本セッションでは、情報マネジメント部門に関わる最近の話題を取り上げるとともに、情報マネジメント部門の業務に携わるスタッフの要件やその組織や運営のあり方について議論する。

1. 視線解析と行動画像を用いた教育プログラム開発
—新人看護師と臨床経験豊富な看護師の差異の活用—
井越 寿美子（新潟大学医歯学総合病院）
2. 看護職のキャリアパス構築と今後の課題について
金澤 昭代（徳島大学病院）
3. 大分大学医学部附属病院における救命救急センターの新築
—大分県の救急医療体制構築に向けた院内整備—
石井 圭亮（大分大学医学部附属病院）
4. 大学病院院内がん登録における実務体制と登録手順の実態調査
岡村 信一（医薬品医療機器総合機構）

14 情報交換会

電子カルテに関する種々の話題

日 時：2月7日（木） 9：30～15：15

会 場：B会場 中会議室 201

総合司会：木村 通男（浜松医科大学医学部附属病院）

企 業：日本電気(株)、東芝医療情報システムズ(株)、富士通(株)、日本アイ・ビー・エム(株)

電子カルテシステムの運用にあたり、種々の細かい問題点が結構多く議論されている。例えば；

- ・病名を医師以外が代行で入力した場合、医師の確認を促す機能
- ・DPC病名と電子カルテ病名（特に退院時サマリ）との整合性を取る機能
- ・抗菌薬の長期投与に対するメッセージ機能
- ・一般薬名処方
- ・食事変更を看護師が行った場合の、医師による確認指示サポート機能
- ・研修医記載に対する指導医の指導とサインを促す機能
- ・定期的パスワード変更促進、放置端末タイムアウト、USBメモリダウンロード制限
- ・外部への情報提供時の運用の流れ（通常画像、動画など特殊画像、検査結果）
- ・その他（計13項目）

これらへの、システムでのサポート機能の有無などについて、事前に各ベンダに問い合わせであり、その発表を元に、情報を交換したい。また当日は会場からの質問を歓迎する。日頃感じている問題点があれば是非この機会にご質問いただきたい。

<情報交換会A>

日 時：2月7日（木） 9：30～10：30 B会場 中会議室 201

企 業：日本電気株式会社

<情報交換会B>

日 時：2月7日（木） 10：30～11：30 B会場 中会議室 201

企 業：東芝医療情報システムズ株式会社

<情報交換会C>

日 時：2月7日（木）13：15～14：15 B会場 中会議室 201
企 業：富士通株式会社

<情報交換会D>

日 時：2月7日（木）14：15～15：15 B会場 中会議室 201
企 業：日本アイ・ビー・エム株式会社

総会

日 時：2月8日（金）10：15～11：45
会 場：A会場 メインホールB

ランチョンセミナー1

共催：日本電気株式会社、株式会社ピーエスシー

施設移転、システムリプレース どう対応しますか？

日 時：2月7日（木）12：00～13：00
会 場：A会場 メインホールB

司 会：松尾 茂（日本電気株式会社医療ソリューション事業部大学病院ソリューション部 部長）

演 者：寺島 健史（新潟大学医歯学総合病院 医療情報部 副部長 准教授）

「外来移転、診療科再編：情報システムは何をすべきか？」

島井 健一郎（徳島大学病院 病院情報センター 副部長 大学院助教）

「システム更新時に考えたことは？」

ランチョンセミナー2

共催：富士フイルムメディカル株式会社

進化する地域医療連携サービス「カルナコネクト」

—ネットワークで、地域が一つの大きな病院に変化する—

日 時：2月7日（木）12：00～13：00
会 場：B会場 中会議室 201

演 者：関塚 永一（独立行政法人国立病院機構埼玉病院 病院長）

ランチョンセミナー3

共催：ESRI ジャパン株式会社

病院における地理情報システム（GIS）の利活用事例と効果的な使い方

日 時：2月7日（木）12：00～13：00
会 場：C会場 中会議室 302A

座 長：鳥谷部 真一（新潟大学医歯学総合病院 医療安全管理部長・病院長補佐 教授）

演 者：細井 泰子（JA 長野厚生連 佐久総合病院 診療情報管理科 科長代理）

渡邊 基弘（ESRI ジャパン株式会社 システムソリューション推進グループ 課長）

スイーツセミナー

共催：マカフィー株式会社

新しいウイルス感染防止策と USB メモリからの情報漏洩対策

日 時：2月7日（木） 15：30～16：30

会 場：B会場 中会議室 201

演 者：佐々木 伸彦（マカフィー株式会社サイバー戦略室）

各種委員会

・医療情報部長会・幹事会

2月6日（水）15：00～17：00 ホテル日航新潟「孔雀の間」

・医療情報・企画関連部長会

2月6日（水）17：00～19：00 ホテル日航新潟「鳳凰の間」

・大学病院診療情報管理士連絡会

2月7日（木）9：00～10：00 E会場（小会議室 203+204）

・UMIN 小委員会（薬剤）

2月7日（木）13：15～15：30 E会場（小会議室 203+204）

・UMIN 小委員会（幹事会）

2月7日（木）16：30～17：30 E会場（小会議室 203+204）

・UMIN 小委員会（事務）

2月7日（木）11：15～12：15 小会議室 305

・日本医療連携研究会

2月7日（木）15：30～17：30 小会議室 305

ポスター発表

日 時：2月7日（木）9：00～18：00

2月8日（金）9：00～11：45

立会い時間：2月7日（木）11：30～12：00、17：30～18：00

（ポスター発表者は立会い時間中、ポスターの前に待機をお願い致します。）

会 場：P会場 メインホール A

1 病院情報システム

- P1-1 PHSに代わる時代に即した院内通信手段の検討
安藤 文人（日本歯科大学附属病院）
- P1-2 調剤支援システムの内部データ利用の有用性
～錠剤自動分包機のコンベア作動データの業務改善への利用～
室 高広（長崎大学病院）
- P1-3 医療機関におけるネットワーク統合について
～既設部門のLAN統合～
鵜野 浩靖（富山大学附属病院）
- P1-4 モバイルデバイス管理と今後の課題
朝田 委津子（名古屋大学医学部附属病院）
- P1-5 医療情報部のあり方に関する考察
一院内ヒアリングから得られた知見より一
土橋 義弘（和歌山県立医科大学附属病院）
- P1-6 本院における電子カルテサーバ入れ替えに伴う対策と対応
阿部 達也（北海道大学病院）
- P1-7 病棟患者認証業務での携帯情報端末(PDA)による認証率の改善の取り組みと課題
丸山 雅道（岡山大学病院）
- P1-8 クラウドによる病院情報システムの再編と変化
ークラウド化・仮想化による運用経験からー
山下 芳範（福井大学医学部附属病院）
- P1-9 病棟業務における注射薬配合変化
～情報収集システムの構築と運用～
植松 俊成（山口大学医学部附属病院）

2 薬剤

- P2-1 DWHとリンクさせたシステムを活用した病棟薬剤業務
江本 晶子（佐賀大学医学部附属病院）

3 看護

- P3-1 看護必要度評価の精度向上にむけての取り組み
～看護必要度評価システムとチェックシステムの構築～
正田 智子（京都大学医学部附属病院）
- P3-2 フローシート項目分類セットマスターからフローシート項目を見直して
大畠 美智子（高知大学医学部附属病院）
- P3-3 看護職員の電子カルテ利用のアクセスログ調査
中尾 大輔（和歌山県立医科大学附属病院）
- P3-4 申し送りの現状と今後の課題
細野 貴広（群馬大学医学部附属病院）
- P3-5 A 病院における看護記録の文字数調査からみえる記録の傾向について
早川 奈津恵（新潟大学医歯学総合病院）
- P3-6 電子カルテ看護記録の内容分析
高木 英子（富山大学附属病院）
- P3-7 物流センターと手術部の共通医療材料の管理の見直し
荒瀬原 明子（新潟大学医歯学総合病院）
- P3-8 新人看護師院内研修の取り組み
—看護診断：基礎編と応用編の理解度調査—
西川 悦子（鳥取大学医学部附属病院）
- P3-9 電子カルテ化後の看護記録の現状と課題
～記録監査結果の分析～
前田 仁（熊本大学医学部附属病院）
- P3-10 病棟看護師の情報収集の実態と問題点
加藤 康子（群馬大学医学部附属病院）

4 検査

- P4-1 Web 解析受託サービスを利用した終夜睡眠ポリグラフィ (PSG) 検査のシステム構築
川下 隆二（岡山大学病院）

5 放射線

- P5-1 一般撮影システムに伴う転送画像の表示不具合事例の報告ならびに改善策について
近藤 泰史（大分大学医学部附属病院）

6 歯科

- P6-1 新潟大学医歯学総合病院における歯科チェア予約システム・患者誘導システムの構築と今後の課題
新美 奏恵（新潟大学医歯学総合病院）

7 事務（マネジメントを含む）

- P7-1 倫理審査申請システム（電子システム）導入後の評価
熊谷 直子（高知大学医学部附属病院臨床試験センター）
- P7-2 経営改善の為の情報発信について
～病院運営企画室の活動から～
村野 博信（京都大学医学部附属病院）
- P7-3 重症度・看護必要度評価の精度向上に資する病院全体の取組
～将来的な要件引き上げに備えて～
小谷 将司（京都大学医学部附属病院）
- P7-4 外来患者滞在時間の短縮に向けた問題点分析
岩崎 蓉子（長崎大学病院）
- P7-5 診療費を会計窓口で支払わずに帰宅できるメンバーシップカード
「ゆーとむカード」の導入5年の評価
鈴木 大悟（東京大学医学部附属病院）
- P7-6 HOMAS2 開発について
丸山 愛（東京大学医学部附属病院）
- P7-7 診療情報の更なる可視化への取り組みについて
～情報の“見える化”から“見せる化”への展開～
齋藤 英雄（愛媛大学）
- P7-8 栄養サポートチームを情報システムで支援する
横田 慎一郎（東京大学医学部附属病院）
- P7-9 会計待ち患者についての考察
岩元 泉（長崎大学病院）
- P7-10 東京大学医学部附属病院における医療機器購入の平準化に向けた取り組み
西村 勇樹雄（東京大学医学部附属病院）
- P7-11 広報活動の見直しと新たな手法の検討
渡部 晃子（東京大学医学部附属病院）
- P7-12 国立大学病院データベースセンターにおける各附属病院への経営情報支援に
ついて
松居 宏樹（東京大学医学部附属病院）
- P7-13 医療クラークの育成から自己成長へ
～医療クラーク業務の標準化と質の向上を目指して～
岩穴口 孝（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院）
- P7-14 東大病院の新しい入院棟の建設
～円滑な意思決定への3つの工夫～
中畠 真理子（東京大学医学部附属病院）

8 地域連携

- P8-1 鳥取県医療連携の標準化対応計画
～名寄せサーバ、クラウド技術、IHE-XDS、IHE-XDS-i の利用～
近藤 博史（鳥取大学医学部附属病院）
- P8-2 ソーシャル・ワークにおけるリスク・マネジメント
長野 宏一朗（東京大学医学部附属病院）
- P8-3 チーム医療の障壁：言語・用語の共通化
長野 宏一朗（東京大学医学部附属病院）
- P8-4 茨城県周産期医療における2施設共通
NICU用患者情報データベースの作成
翠川 晴彦（筑波大学附属病院）
- P8-5 受診患者の居住地分析を応用した地域医療連携分析について
中村 敦（山口県済生会下関総合病院）
- P8-6 広域臨床研究データ管理システムの運用と改善
福田 優子（九州大学病院）

9 診療情報管理士

- P9-1 高知県がん登録精度向上のための活動と取り組みの成果
津野 法子（高知大学医学部附属病院）
- P9-2 説明書・同意書・報告書等の共通文書テンプレート化
瀬戸 美和子（富山大学附属病院）
- P9-3 電子カルテ導入に伴う紙文書の電子化について
～当院のスキャン業務の現状と今後の課題～
上田 慧（和歌山県立医科大学附属病院）
- P9-4 電子カルテシステム活用による診療記事の量的点検について
野村 俊子（大分大学医学部附属病院）
- P9-5 DPCコーディングの精緻化を目指した院内体制の再構築
～診療情報管理士と医療クラークの連携～
愛甲 なつ美（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院）
- P9-6 鹿児島県院内がん登録研修会の運営と問題点
長岡 佳代（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院）
- P9-7 診療録管理業務の可視化による質向上への取り組み
高野 雄二（筑波大学附属病院）
- P9-8 診療録の長期貸出理由に関する調査
大塚 由貴（筑波大学附属病院）
- P9-9 診療情報管理士による全国大学病院の電子カルテと運用に関する調査
上田 郁奈代（大阪大学医学部附属病院）

10 その他

- P10-1 国立大学病院を戦略の類似性でグループ化する試み
—施設基準を対象にした階層化クラスタリングの紹介—
野口 大輔 (浜松医科大学)
- P10-2 手術における収入、直接費用の推移に関する分析
—診療報酬改定の影響—
柴山 純一 (旭川医科大学病院)
- P10-3 病床運用における看護師の役割
—患者・地域・病院にとって効率的な病床運用—
岩田 春子 (鳥根大学医学部附属病院)
- P10-4 医療保育士の養成と小児病棟における保育支援
酒井 勇樹 (筑波大学附属病院)
- P10-5 国立大学病院事務職員の育成について考える
—「第3回国立大学附属病院係長クラス勉強会」の企画・運営から—
杉森 智宏 (長崎大学病院)
- P10-6 電子カルテシステムの有用性
—新潟大学・臨床工学部門における電子カルテシステムの有用性—
近藤 友希 (新潟大学医歯学総合病院)

テーマポスター

病院機能を活性化させる「投資」に係る取組み

- | | | |
|----|---|---------------|
| 1 | 北海道大学病院での患者相談体制
～医療メディエータと警察 OB を加えた患者相談室～ | 北海道大学病院 |
| 2 | 入退院センター設置とその効果及び課題について | 旭川医科大学病院 |
| 3 | 筑波大学附属病院における新しい産学連携のカタチ
～大学と民間の叡智で明日の医療・医学を創る力に～ | 筑波大学附属病院 |
| 4 | DPC チームによる DPC 検証 | 筑波大学附属病院 |
| 5 | 病院アメニティモールの整備・運営事業
定期借地権を利用した民間資金活用型事業プロポーザル | 群馬大学医学部附属病院 |
| 6 | 人的資源への「投資」と正のスパイラル | 千葉大学医学部附属病院 |
| 7 | 財務分析 WG における財務データの比較分析① | 東京大学医学部附属病院 |
| 8 | 財務分析 WG における財務データの比較分析② | 東京大学医学部附属病院 |
| 9 | 戦略的人員配置による病院機能の活性化 | 東京大学医学部附属病院 |
| 10 | 東大病院における医療機器整備 | 東京大学医学部附属病院 |
| 11 | 成果主義導入による病院の活性化 ～8年間でみえた光と影～ | 新潟大学医歯学総合病院 |
| 12 | 「教育・研究・診療推進プロジェクト」
～医療人各々の自由な発想によるプロジェクトへの経費支援～ | 信州大学医学部附属病院 |
| 13 | 医師クラークの評価（現場医師へのアンケートから） | 福井大学医学部附属病院 |
| 14 | 効率的な投資と施設基準について～投資は取り戻せるのか?!～ | 浜松医科大学医学部附属病院 |
| 15 | 情報セキュリティ向上への新たな取組
～研究活性化に伴い、臨床データを持ち出すにあたって～ | 名古屋大学医学部附属病院 |
| 16 | 滋賀医科大学の病院再開発 -病院機能の維持と高度化- | 滋賀医科大学医学部附属病院 |
| 17 | 財政投融資を活用した ESCO 事業の導入 | 大阪大学医学部附属病院 |
| 18 | 病院教授会の創設について
一病院長のリーダーシップ発揮につながるシステムの構築について一 | 岡山大学病院 |
| 19 | 大学病院における経費削減に対する取組みについて | 岡山大学病院 |
| 20 | 山口大学の病院機能を活性化させる取組み | 山口大学医学部附属病院 |
| 21 | 徳島大学病院と隣接する県立中央病院の連携強化
一総合メディカルゾーンにおける医療及び情報・教育の拠点化一 | 徳島大学病院 |
| 22 | 徳島大学病院における人材育成システム
～キャリア形成支援センターの使命とは～ | 徳島大学病院 |
| 23 | 大学病院とホテルのコラボレーション | 愛媛大学医学部附属病院 |
| 24 | 病院医療事務の直営化について | 高知大学医学部附属病院 |
| 25 | Motivation up ～熊大病院における投資～ | 熊本大学医学部附属病院 |